

ダース考

ダース・ベイダーも夜は寝るのだろうか。

二週間ほど前にその考えが浮かんで以来、ずっとダース・ベイダーのことを考えつづけている。

数々の悪の執務を終えて、一日の終わりに自室に下がるダース・ベイダー。それはどこにあるのだろうか。デス・スターの中だろうか。それとも大きな宇宙船の中か。広さはどれくらいだろう。やはり偉いものだから、最低三十畳ぐらいはあるような気がする。それともスペースの限られた宇宙船内ゆえ、案外つましく六畳ぐらいだったりするのだろうか。

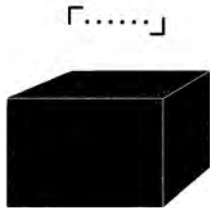
インテリアはやっぱり黒で統一しているのだろうか。壁紙も黒。天井も黒。カーペットも黒。いやカーペットじゃない気がする。たぶん黒のリノリウム。もしくは大理石。黒のデスク。黒の椅子。カーテンは、カーテンはたぶんない。

悪の執務を終えて、一日の終わりに自室に下がるダース・ベイダー。自動ドアが背後で

シュツと閉まる。一人になった瞬間、何を考えるだろうか。疲れたな、と一瞬でも考えるだろうか。ふっと溜め息をつくだろうか。いやしかしダース・ベイダーは常にぶしゅーっ、ぶしゅーっ、と呼吸しているのだ。溜め息をついてもぶしゅーっ、ぶしゅーっに紛れて聞こえない、たぶん。

執務を終えてダース・ベイダーは自室に下がる。黒マントを脱いでハンガーにかける。手袋を取って台の上に置く。ブーツも脱ぐだろうか。マントの下に着ている、あの鎧みたいなものも脱ぐだろうか。脱ぎながら、何を考えるだろうか。私たちが夜、服を脱ぎながらぼんやりと心をさまよわせる、そんな瞬間がダース・ベイダーにもあるのだろうか。あるとすれば、それはデス・スターの完成の遅れを咎める悪の提督と無能な部下の板挟みになっていることについてだろうか。あるいはジェダイだった頃の思い出だろうか。それともそんな人間らしい感情はとうの昔になくして、空っぽの心に、ただぶしゅーっ、ぶしゅーっという呼吸音が響いているだろうか。

そしてあのヘルメット。あれは顔と一体化したものとばかり思っていたが、じつは脱げるものであることを私たちは知っている。下には普通の人間の顔があった。一日じゅうヘルメットをかぶって、自分の呼吸音を聞く気分はどんなだろう。中は蒸れないだろうか。汗や顔の脂で、内側がぬるぬるしないだろうか。数々の悪の執務を終えて自室で一人にな



って、ダース・ベイダーはヘルメットを脱ぐだろうか。一日の終わりに初めて顔に頭に涼しい外気を感じて、やっと人心地がつくだろうか。汗ばんだ顔や頭を洗うだろうか。そして脱いだヘルメットを横に置いて、眠りにつくだろうか。

それともマントも手袋もブーツも脱がず、ヘルメットも取らずに立ったまま眠るだろうか。あるいは全身がサイボーグ化されているので、もはや眠る必要もなく、休むことなく悪の執務に従事しているだろうか。

ところで、つい先日会った人によると、ダース・ベイダーが登場するときに必ずかかる、あのテーマ曲には歌詞があるのだそうだ。

ダース・ベイダー　こわい
ダース・ベイダー　くろい